

新たな挑戦で切り拓く、持続可能な農業 ～脱炭素と安定した農業経営の両立～

JAバンクあいちでは「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」を目指し、新規就農希望者からベテラン農業者まで幅広い支援を行っています。JA愛知信連が支援した生産者の「生の声」をお届けします。

ビジネスマッチング



課題

酷暑や資材高騰など、農業を取り巻く環境の変化により、農業経営の安定に課題感

解決

水稻の中干し延長によるカーボクレジットの創出と収益化に挑戦し、脱炭素に貢献しつつ、農業所得の増加に成功

左：稲垣様 右：左右田様

地域の特性を活かした効率的で安定した農業

西尾市吉良町を拠点に水稻のオペレーター事業を展開する弊社は、地域の平坦な地形を生かし、あぜの撤去などによる農地の大区画化を進め、効率的な水稻栽培に取り組んできました。

現在は、米を約80ha、小麦・大豆を各約70ha作付けし、品種や作付け時期を工夫することで、年間の作業を平準化し、安定した生産体制の構築にも取り組んでいます。

また、経営において重視しているのは、新しいことへ挑戦し続ける姿勢です。大区画化した農地での営農の効率化に向け、先進的な技術を積

極的に取り入れています。ドローンで撮影したデータを営農システムと連携させ、農業等の散布に活用するほか、200馬力超の出力とICT機能を備えた大型トラクターも導入しています。さらに、生成AIの活用やSNSでのPRにも取り組むなど、営農以外の分野でも新たな挑戦を続けています。



新たな挑戦として、カーボクレジットを検討

信連の融資担当者から紹介を受けたことをきっかけに、新たな挑戦の一つとして、水稻の中干し期間延長によるカーボクレジットの創出に取り組んでいます。令和7年度には、64haの水田で実施し、274t-CO₂の温室効果ガス排出削減を実現するとともに、創出したカーボクレジットによる収益を得ることができました。本取組みは、環境負荷の低減を図りながら、農業所得の向上にもしっかりとつなげられるものだ実感しています。令和8年度は、繁忙期の作業体制や業務状況を踏まえて実施を見送りましたが、今後は令和7年度に得た経験や成果を生かし、再び取り組むことを検討しています。



地域の農地を守り、安定した経営を目指して

酷暑や米価の変動、資材・農業機械の値上がり、高齢化や後継者不足などにより、農業を取り巻く環境は年々厳しさを増し、近隣でも耕作放棄地が増加しています。限られた人員で営農を続けるなか、農業機械の価格高騰は、省力化・効率化に必要な機械の導入・更新を難しくし、新たな挑戦や持続可能な農業経営の妨げにもなりかねません。

JAバンクには、機械の導入や新たな挑戦を後押しする資金面での支援を期待しています。弊社もその支援を活用し、新たな取組みを積極的に取り入れ、地域の農地を守りながら安定した経営を目指していきます。

株式会社アイケーファーム
代表取締役社長

左右田 秀行 さま

経理・庶務担当

稲垣 時男 さま



事業内容

米・麦・大豆の生産

●令和5年度稲作・麦作・大豆作共励会
西三河農業協同組合 組合長賞
(稲作、麦作のW受賞)

Field Notes

水稻の中干し期間延長によるカーボクレジット創出は、農業所得の増加につながる取組みである一方、過度な延長は収量

低下を招くおそれがあるため、生育状況を確認しながら適切に取り組むことが重要です。そこで、豊富な経験があり、これまで先進的な農業技術を積極的に導入され

てきた当社に、新たな取組みの一つとしてご紹介させていただきました。その結果、ご多忙なかでも収量を維持しながらクレジットの創出・収益化を実現され、当社の技

術力と実行力の高さを改めて感じております。今後も、金融・非金融の両面から継続的に当社の取組みを支え、成長に貢献できる金融機関を目指してまいります。

食農法人営業部
地域営業グループ
肥後担当
農業企画グループ
井上担当

